

## 第4回（仮称）宇都宮市学校教育推進計画策定懇談会の記録

日 時：平成17年9月29日（木） 15：00～ 16：30

場 所：教育委員室

出席者（敬称略）

懇談会委員

木村 寛，林 香君，松江 比佐子，渡辺 寿一，金子 正一

篠崎 圭一，川嶋 和子，岩瀬賢一郎，新沼 隆三，栗田 純子，小笠原 弘

事務局

伊藤教育長，大野教育次長（学校担当），

総務担当 手塚主幹，古口副主幹，細井主査

教育企画課 佐々木GL，生田指導主事，

学校教育課 半田課長，渡邊補佐，高橋係長，浪花副主幹指導主事，手塚指導主事，  
宇賀神指導主事

生涯学習課 小林課長

教育センター 石川所長

1 開 会（司会 渡邊補佐）

2 議 事

(1) 説明事項

第3回懇談会の記録について

木村会長：第3回懇談会の記録については，後で各自目を通していただくということで，  
何かございましたら事務局へ連絡願います。

委 員：（特に意義なし）

(2) 協議事項

本計画の名称について

木村会長：事務局より，名称案について説明願いたい。

事務局：協議資料1をもとに，名称案を説明。

新沼委員：よい名称である。

金子委員：親しみやすくてよい。

渡辺委員：「絆」にルビを振るなどするとよい。

木村会長：名称は，これでよろしいか。

委 員：（特に意義なし）

計画（素案）の内容等について

- 木村会長 : 次に、素案の内容について、事務局より説明願いたい。
- 事務局 : 資料 2, 3, 4 をもとに、目的、位置付け、対象、期間、構成、等について説明。
- 木村会長 : 素案の第 1 ~ 3 章について、資料の 3 は素案内には入れないのか。
- 事務局 : 市民に分かるように、別刷りでの配付などを考えている。
- 篠崎委員 : 「地域」というものを理念の段階から触れないというのは、今までの協議からするとおかしいのではないかと。基本理念に「地域」を入れるべきである。
- 木村会長 : 学校と地域で取り組んでいくことについては、説明文章内に入っている。
- 新沼委員 : サブタイトルの「子どもに夢」「学校に活力」「地域に絆」の 3 つは並列ではない。
- 林副会長 : サブタイトルを生かして、みんなの意識を変えることが必要である。考え方としては、あくまでも学校中心でよい。
- 小笠原委員 : 第二章の不登校について、どのようなものを不登校というか記すべきではないか。
- 木村会長 : 資料編 P 80 でも触れているが、事務局はいかがか。
- 事務局 : 年間 30 日以上、病気・けが・家事都合以外の理由で欠席した児童生徒数を指しているが、見た方にとって分かりやすいよう工夫したい。
- 川嶋委員 : 宇都宮市立学校のみを対象としているが、私立校等とも協力していくべきではないか。
- 事務局 : 宇都宮市立 80 校を管理監督しているが、直接私立、国立に指導助言できない。
- 木村会長 : この素案はどこに配付されるのか。
- 事務局 : 具体的にどこにとは、まだ決定していない。
- 林副会長 : 私立校等から意見を聴く機会を、市が積極的に設定して欲しい。時代の流れとしては、経営者や管理者の違いに関わらず行っていくべきである。
- 木村会長 : プランの運用面について、柔軟な運用を希望する意見が出た。
- 事務局 : 宇都宮の子どもという視点で対応していきたい。
- 渡辺委員 : 「特別支援教育」について、一般人は理解できないのではないかと。また、「高齢化社会」等の「・・・化」という表記や、カタカナ表記が多い。使わないですむ部分があるのではないかと。
- 林副会長 : 「地域」について基本理念での表現を工夫できないか。基本目標と重点プロジェクトの内容が不一致である。
- 松江委員 : サブテーマがよくまとめられているので、このようにできるとよい。
- 新沼委員 : プラン内で、学校と地域を並列で扱えるのかどうか。
- 林副会長 : 今関わっている城山西小学校を考えると、地域を抜きにして学校は考えられない。城山西小学校をモデルにするとよい。

- 篠崎委員 : たくましい子どもを育てるためには、子ども間のトラブルを避けてはできない。保護者の理解を得るためには、地域の力が重要になるのではないか。このことから、ぜひ、基本理念で「地域」について触れて欲しい。
- 木村会長 : このプランに記されたことはとても壮大なことである。学校だけで丸抱えすると、学校や教員がつぶれてしまう。
- 新沼委員 : 今のままではプランに盛っても実施が難しい。
- 松江委員 : 長期間の計画であるため、夢をもったものであるべき。計画に入れておかないと、何もできなくなってしまう。
- 事務局 : 作成の目的は子どもと学校が中心、地域と学校が互いに支えあうことは重要と考える。資料後半でも地域について出てくるため、後半部分の説明をさせていただいてから、再び意見をいただきたい。
- 木村会長 : このままでは最後まで協議できないため、事務局より後半部分について説明願いたい。
- 事務局 : 資料4をもとに、第4章以降を施策の各柱、重点プロジェクトを中心に説明。
- 渡辺委員 : P T Aの当初の目的は、学校と共に、家庭が子どもの力を高めることであった。評議員制度では、一部の人間が学校運営に関わるだけであり、どうやって地域に下ろしていくのか。評議員であっても、学校のことをよく知らない委員が多く、本質的な教育論ができないのではないか。
- 木村会長 : 「魅力ある学校づくり地域協議会」は評議員制度に替わるものなのか。
- 事務局 : 今後、現在ある組織との関係調整を図っていきたい。
- 篠崎委員 : 重点プロジェクトだけをみても、学校だけでできるか不明な感がある。いかに保護者の理解や地域の支えがあるかで達成できるかが決まってくる。熱心な教員が生かされる内容が示されよい。また、「5章の保護者」の部分に、親としての厳しさを付け加え、愛情と厳しさというものにしていただきたい。
- 林副会長 : このプロジェクトを市民に伝えるボランティアの育成が必要ではないか。
- 川嶋委員 : 保護者をフォローできるような、地域で支える大人が多ければ、不登校になる子どもが減るのではないだろうか。魅力ある学校づくりには、地域の力は必要不可欠ではないか。協議委員会の設置に大きな期待をもつ。
- 木村会長 : 市教委が設置ということで、大いに期待したい。
- 松江委員 : 新潟の学校の例であるが、地域が支える学校では不登校等が少ない。県のいじめ件数の多さは本当なのだろうか。詳しく教えていただきたい。
- 渡辺委員 : 下野新聞に、統計の取り方に各県幅があることと、いじめられたことをうまく話せない子どもが多いということが多いのではないか。
- 篠崎委員 : 親が神経質になりすぎているのではないか。
- 木村会長 : 今の意見は、宇都宮や栃木のイメージアップのためにはどうすればよいかという内容とも言える。

- 渡辺委員 : スクールガード・リーダーはいつ頃実施されるのか。
- 事務局 : 文科省の施策で5年計画で順順に実施を予定しているが、本市では全小学校で警察OBが地域ボランティアを指導する。本年10月半ばから配置する。
- 林副会長 : 「ノーマライゼーション」などのカタカナ言葉の再考願いたい。
- 新沼委員 : 「倫理観」等の順序はいかなものか。
- 渡辺委員 : 意欲の低下は一部の生徒のみではないか。
- 木村会長 : 中教審の答申では、このような表現であるか確認いただきたい。文言などでご指摘があれば、事務局まで連絡願いたい。
- 篠崎委員 : よいプランであることから、市民を味方につけるような広報をしていただくとともに、教育委員会には毅然とした態度で対応いただきたい。そうすれば、現場の先生の意欲も高まるのではないだろうか。今後は幼稚園や保育園との連携も検討いただきたい。
- 川嶋委員 : 協議会には名誉職でない動ける人の人選をお願いしたい。

(3) その他

- ・ 特になし

3 謝 辞（教育長）

4 閉 会（渡邊補佐）